

# 交通安全教育と通学路での危険意識、行動意向の変化にみる学年進行による変化の考察 (山口県周南市における通学路安全対策の事例研究その2)

目山直樹\*1 ●峯奈々\*1  
原田真緒\*2

\*1: 徳山工業高等専門学校

\*2: 国土交通省松江国道事務所

## 1. 研究の目的

通学路の安全対策の一つとして、同一地域内の小学生・中学生の双方に交通安全教育を実施し、受講前後でのアンケート調査と実測調査を通じて、危険意識や行動意向、通行位置の変化を把握し、正しい交通行動を促すことを目的とする。  
このうち、勝間地区2013-2015年度の3年間に行った交通安全教育を対象に、小学校・中学校でのアンケート結果から危険意識、行動意向など、学年進行による変化や差異に着目して、交通安全教育の効果を検討する。

表1-1 交通安全講話の実地状況(2015年度)

	勝間小	熊毛中	戸田小	桜田中	菊川小	菊川中
対象学年	3~6年生	全学年	3~6年生	全学年	3~6年生	全学年
事前アンケート	280票	380票	145票	155票	299票	191票
事後アンケート	281票	382票	145票	158票	299票	193票

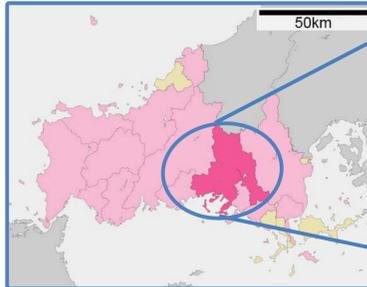


図1-1 周南市の位置

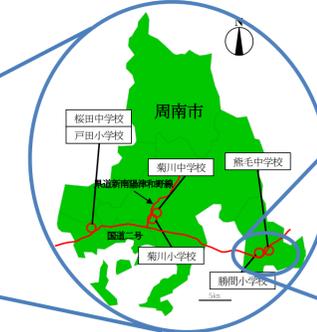


図1-2 調査対象(3地区)



図1-3 勝間地区

## 2. 学年進行による危険意識の変化

①講話により向上した危険意識は学年を進行しても維持できている  
②小学6年生から中学1年生になったときに危険意識が急激に下がった  
→通学路や交通手段が変わり、意識がリセットされることが原因の一つだと考えられる



引き続き交通安全講話を行うことが必要

表2-1 勝間小学校・熊毛中学校

問：登校時の通学路は安全と思うか？

	2013年度 5年生		2014年度 6年生		2015年度 中学1年生	
	事前	事後	事前	事後	事前	事後
思う	65%	46%	43%	38%	48%	36%
どちらとも 思わない	18%	21%	21%	16%	35%	27%
思わない	17%	33%	36%	46%	17%	35%

	2013年度 6年生		2014年度 中学1年生		2015年度 中学2年生	
	事前	事後	事前	事後	事前	事後
思う	64%	60%	60%	46%	47%	37%
どちらとも 思わない	19%	28%	27%	33%	34%	40%
思わない	16%	12%	13%	20%	19%	23%

表2-2 熊毛中学校

問：登校時の通学路は安全と思うか？

	2014年度 1年生		2015年度 2年生	
	事前	事後	事前	事後
思う	60%	52%	48%	38%
どちらとも 思わない	25%	28%	34%	40%
思わない	15%	19%	18%	21%

	2014年度 2年生		2015年度 3年生	
	事前	事後	事前	事後
思う	49%	45%	41%	39%
どちらとも 思わない	31%	22%	33%	29%
思わない	19%	33%	26%	32%

## 3. 学年進行による行動意向の変化

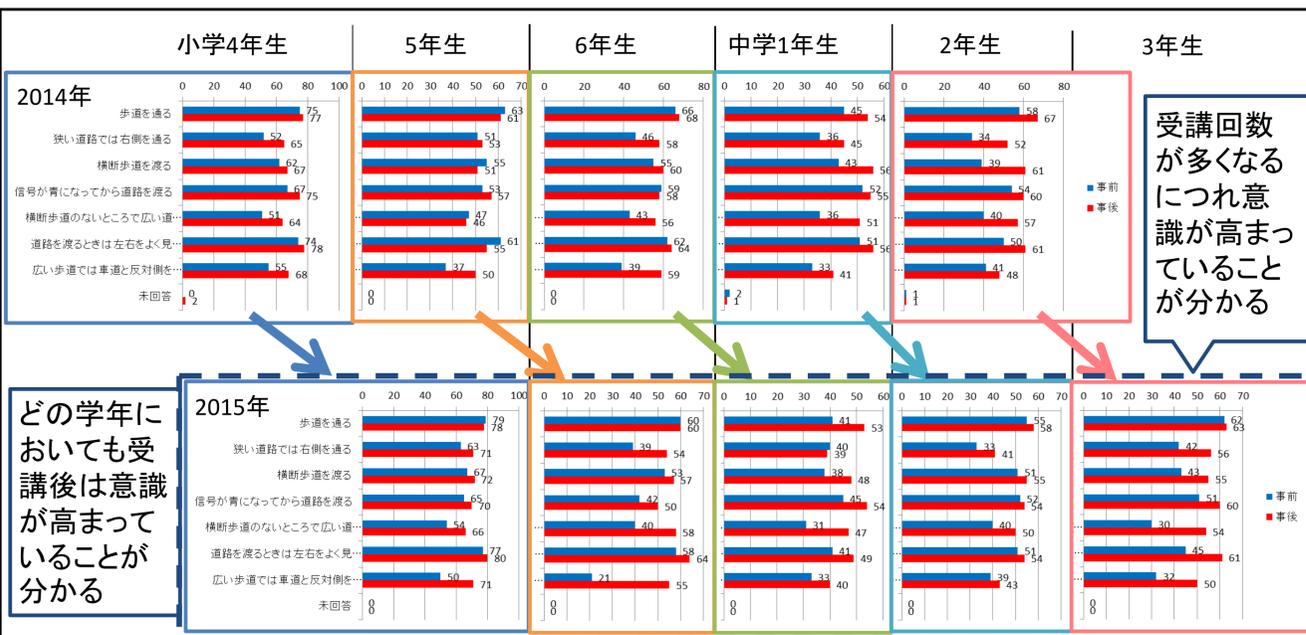


図3-1 勝間小学校と熊毛中学校の交通安全7則の行動意向

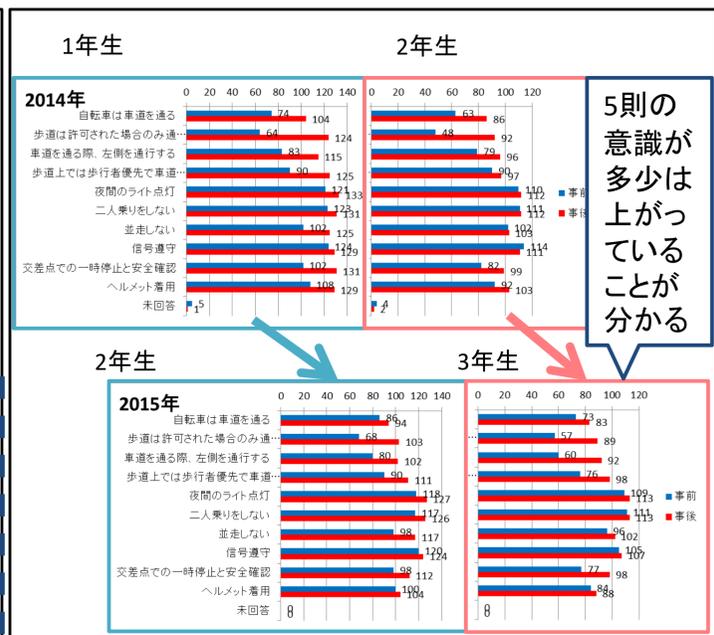


図3-2 熊毛中学校の自転車安全利用5則

## 4. 通行位置の変化

講話前は横に並んで路側帯ギリギリを歩いていた

講話後は路側帯に気を付けるように歩き路側帯の外側(車道)を通行する児童の割合が減少した

ある歩道では、目視で生徒たちの通行位置が安全な方に変化していたため、効果は確認できた

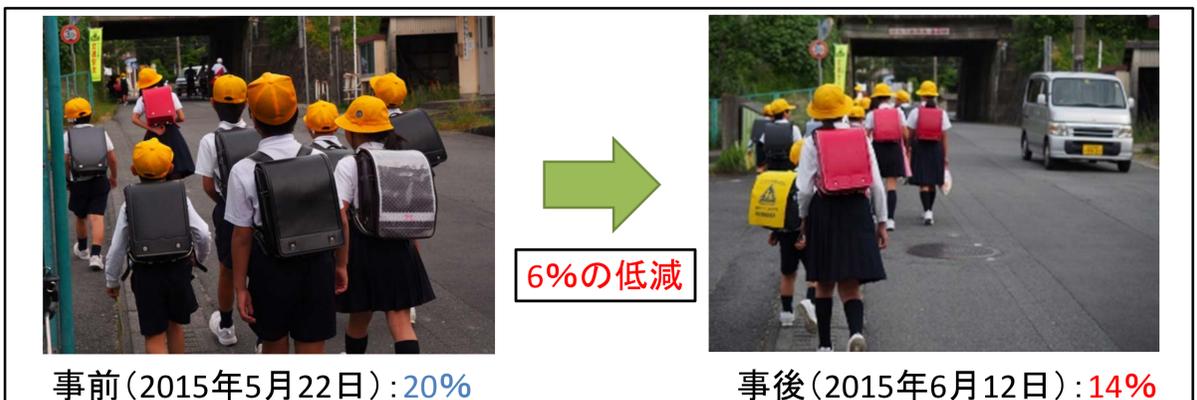


図4 通行位置の変化